

## ISベース柱脚工法 Revit ファミリに関して

2022年7月  
アイエスケ株式会社

収録されているRevitデータ（.rfa、.rvt）は、Revit2017にて作成されています。

収録データ


- ・柱脚「ISベース\_SH.rfa」
- ・タイプカタログ「ISベース\_SH.txt」
- ・柱形「柱形\_SH.rvt」
- ・IFCデータ「SHシリーズ.ifc」

収録されているISベース仕様

適用鋼管	柱脚記号	適用鋼管	柱脚記号
□150	SH151	□500	SH501、SH502、SH503、SH504、SH505、SH506
□175	SH171、SH172	□550	SH551、SH552、SH553、SH554、SH555、SH556
□200	SH201、SH202、SH203、SH204	□600	SH601、SH602、SH603、SH604、SH605、SH606
□250	SH251、SH252、SH253、SH254、SH255	□650	SH651、SH652、SH653、SH654、SH655、SH656
□300	SH301、SH302、SH303、SH304、SH305	□700	SH701、SH702、SH703、SH704、SH705
□350	SH351、SH352、SH353、SH354、SH355、SH356	□750	SH751、SH752、SH753、SH754、SH755
□400	SH401、SH402、SH403、SH404、SH405、SH406	□800	SH801、SH802、SH803、SH804、SH805
□450	SH451、SH452、SH453、SH454、SH455、SH456		

ファミリをプロジェクト内にロードするときは、タイプカタログを使用することにより、必要とするファミリタイプのみを選択（複数選択可）してロードできます。  
タイプカタログ(.txt)は、ファミリと同じ場所(フォルダ)に保存してください。

＜必要なファミリタイプを選択してロードするには＞

1. Revit プロジェクトまたはテンプレートで、（ファミリをロード）をクリックします。
2. ロードするファミリ（IS ベース\_SH.rfa ファイル）を選択します。  
タイプ カタログが表示されます。
3. タイプ カタログの[タイプ]列で、ロードするファミリ タイプ（1 つまたは複数）を選択します。  
選択の際、[Ctrl]を押すと、複数のタイプを選択できます。また、各列の一番上にあるリストから特定のパラメータを選択して、検索項目を絞り込むことができます。
4. [開く]をクリックします。

＜全タイプのファミリをロードするには＞

IS ベース\_SH.rfa ファイルの保存フォルダから、Revit 上のプロジェクトブラウザへ直接ドラッグすることで、全タイプをロードできます。

ISベース\_SHファミリはプロジェクト内の構造基礎ファミリ（柱形）上面に配置できます。  
作業プロジェクトへ配置し、”柱形\_h”パラメータへ柱形高さを入力することにより  
アンカーフレーム高さを適宜変更してご使用ください。

## 柱形\_SH.rvt ファイルについて

配筋検討、配筋チェック等にご利用頂けるよう、柱形ファミリに標準仕様配筋を配置したプロジェクトファイルです。

SHシリーズ全74タイプ（主筋2種類または3種類）が収録されています。

設計中のプロジェクトファイルへリンク（リンク後にリンクをバインド）することで梁等との配筋検討や干渉チェック等にご使用いただけます。

全タイプが一つのプロジェクトファイルに収録されていますので、必要なタイプのみを別保存してからリンクすることをお勧めします。

なお、使用しているテンプレートによってはリンクをバインドできない場合がございます。デフォルトの「構造テンプレート」であれば、リンクをバインドしてご使用いただけます。

ヒント：鉄筋を実径で表示する場合は、

鉄筋を選択 → ビューの表示状態 編集 → 実径で表示にチェック ☒

### <柱形ファミリ>

幅、高さをインスタンスパラメータへ入力してください。

幅パラメータ → w（最小値より小さい数値が入力されると最小値となり、  
最大値より大きい数値が入力されると最大値となります）

高さパラメータ → h（最小値より小さい数値が入力された場合は最小値となります）

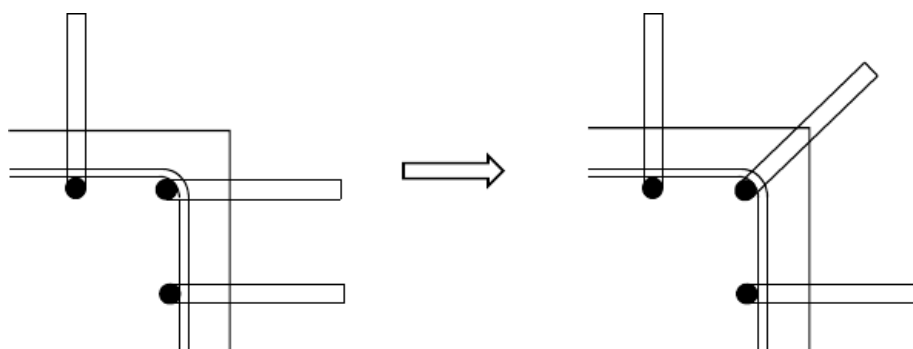
※ 最大値、最小値についてはSHシリーズカタログを参照してください。

### <鉄筋>

任意の位置へ鉄筋を移動・調整してください。

～四隅の主筋について～

Revitの仕様により、鉄筋要素を回転させた場合かぶりとの拘束が保持されません。そのため、柱形サイズを変更した後に任意で回転してご使用ください。



I S ベース柱脚工法の設計、施工に関してはカタログ、設計ハンドブックならびに施工マニュアルに基づき実施してください。

注意事項、お願い等を逸脱した上での使用結果、ならびに当サイトよりダウンロードされたデータ内容を変更された上のご使用について当社は、その責任を負いかねますので、ご了承のほどお願い致します。

本データに含まれる基礎柱形の寸法及び鉄筋量等はカタログ等を示す標準柱脚仕様です。  
また、データの内容につきましては予告なく変更を行うことがありますのであわせてご了承くださいますようお願いいたします。

以上